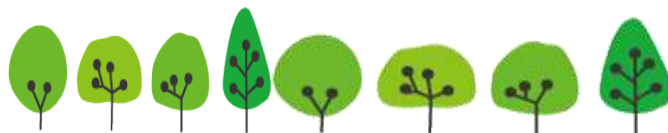


いちりん通信

No.37

治療とは何か？



【症例報告】

渋谷区 H様 78歳 男性 脊柱管狭窄症 週2回治療

Hさんは脊柱管狭窄症に腰椎滑り症が加わり、下肢の痺れで悩んでいました。

しかし、元々活動的な性格のHさんは、毎日奥様と共に1日30分の散歩は欠かさず、地域のボランティア活動のため週に2度は外出される日々です。

とは言え狭窄症のため歩行姿勢はかなり前傾になり、腰の筋肉はパンパンに張ってしまって、腰痛をさらに悪化させかねない状況です。が、Hさんは歩行器を使うことをとても嫌がっていました。「自分は若い。そんなの使うのは年寄り臭い」と…。

その1 都度都度のマッサージだけでは改善しない

私たちが施術に伺うと、いつも「腰が張ってつらいから、ここをマッサージしてほしい」と訴えられます。もちろんおつらい腰のマッサージはするものの、根本原因である「かなりの前傾姿勢で歩く」状況を改善しなければ、いくらマッサージで筋肉をほぐしても、状況は一向に変わりません。…しかしHさん、杖は使うものの、歩行器はとても嫌なご様子です。

その2 きっかけを「待つ」ことも治療

Hさんはやがて「腰が痛過ぎて主治医に相談したら手術を勧められたんだが、どうしたら良いか迷っている」とおっしゃるようになりました。そこで私たちは「手術をするのは最後の手段です。その前に、できることはすべて試してみませんか？」と歩行器を促しました。するとHさん、かくもあっさりと受け容れて下さったのです！

その3 治療とは「身体や生活そのものに変化を与えること」

このように、治療とは単に対処療法的に「その場をしのぐ」だけではなく、その患者様の持っている身体能力や意欲を見定めた上で、原因となっている根本的な問題（身体的問題・心理的問題）を特定し、施術によって身体バランスに変化を与え、更には生活スタイルそのものに変化を与えることだと私たちは考えています。

歩行器によって負荷は軽減され、腰痛は改善しました。(F・K)

